



NPO 法人 江戸城天守を再建する会

こんてんつ

江戸城御城印を発売	1
AR アプリ制作、寄付お願い	2
会員寄稿)江戸城周辺の酒蔵	3
三浦先生特別寄稿⑨	4
新規入会者・寄付者紹介	5
行事報告	6
行事報告&予定・お知らせ	7
行事予定	8

令和元年 10月7日 第53号

# 江戸城御城印を発売

## 新たな縁となつて会員増につながる

8月31日から「江戸城御城印」の頒布を始めました。江戸城散策ツアーや江戸城サロン(講演会)など本会行事参加者に販売しております。Twitter や Facebook でお知らせしたところ、御城印が新たな御縁となつて行事への参加者が増え、さらに入会に至る流れができてきました。中には遠方から家族そろって参加してくれるというケースもありました。クチコミでの宣伝に会員の皆様のお力添えをお願いします。

### ① 御城印発売のねらい

江戸城天守再建の世論喚起活動の一環として江戸城御城印を作成しました。当会主催の江戸城散策ツアーや江戸城サロンなど講演会等に参加した方がお求めになれます。

御城印というのは、寺社が発行する御朱印をお城向けにアレンジしたもので、城址を観光目的で訪問した人がその記念に押すスタンプのようなものです。名称は、「登閣記念印章」「登城記念御朱印」「城郭符」「御城朱印」などさまざまで、城を管理する自治体、管理事務所、観光協会、歴史資料館等が発行しています。ここ2,3年で全国100を上回るお城が発行を始めました。新たにな発売が続いています。

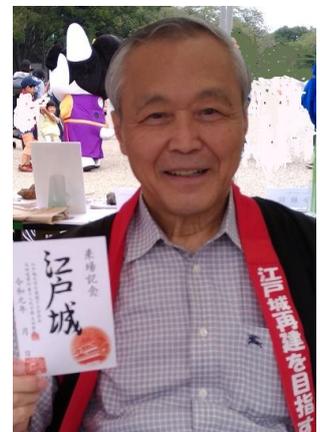
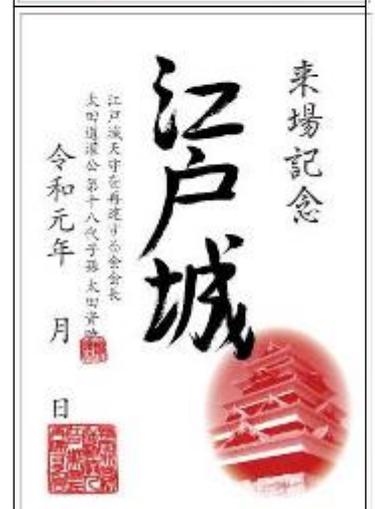
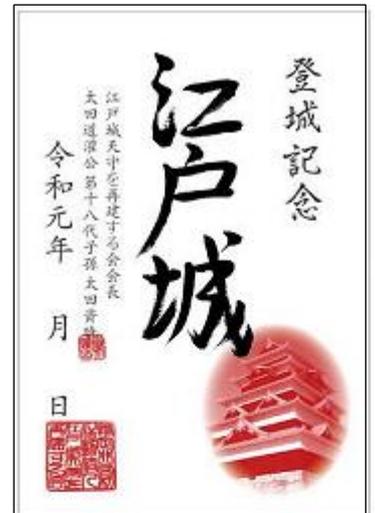
### ② 本会ならではの江戸城御城印の特長

御城印に記された「江戸城」の書は、太田道灌公第18代子孫で本会の太田資暁会長の揮毫です。各地の御城印には城主の家紋を印刷することが多いですが、揮毫者名と花押入りは見当たりません。江戸城寛永度天守復元画像入りも本会ならではのものです。なお「登城記念」と「来場記念」の2種類を用意しました。

### ③ 価格(税込)と発行部数(枚数)

使用している和紙を2種類用意しました。和紙の種類によって価格が異なります。それぞれ「洋一封筒」付きで、奉書紙(ほうしょがみ)製が700円、墨茶羅(まんだら)製が300円です。

なお初刷り500枚のところ、好評のため近く増刷を予定しています。



「江戸城」を揮毫した太田会長

100万人賛同署名運動推進中!

57,814筆

(10月1日現在)

# 江戸城天守のARアプリ制作に向けて寄付のお願い

## 文化庁の補助金交付が決定しました

ARアプリの完成で、何ができるのか？

### 当アプリの第一の機能：江戸城天守の見える化！

皇居東御苑にある天守台にスマートフォンを向ければ、江戸城寛永度天守が姿を現します。天守台に沿って歩けば、東西南北の側面の天守の姿が見えます。ご家族やご友人が天守と一緒に記念撮影することもできます。



何も建っていない天守台にスマホのカメラをかざすと、江戸城天守が建っている姿を映し出すことができます。カメラの位置を変えれば、それに応じてお城の見える角度を自動調整。

### 第二の機能：皇居10箇所の解説を4か国語表示！

桜田門から清水門にいたる10スポットで、GPSに連動して日本語・英語・中国語・韓国語の解説をスマホに表示します。

### ARアプリが江戸城天守再建運動の大きな力に！

江戸城寛永度天守はおよそ360年前に明暦の大火で焼失しました。再建すれば21世紀における世界最大の木造建築物となる江戸城天守の壮麗な姿を実際に見えるようにし、多くの人々が天守再建運動に賛同いただけるきっかけにしたいと考えています。

皇居東御苑に展示される天守模型（30分の1のリアル模型）と合わせて、天守再建の世論喚起に対して、大きな力になるに違いありません。

### どこに寄付をすればよいか？

公益財団法人公益推進協会「日本の絆」基金へ寄付していただければ、所得税・住民税を合わせて、寄付金額のおよそ半分以上が確定申告で戻ります。

### クラウドファンディングの結果報告と善後策

会員の皆様にはクラウドファンディングへのご協力誠にありがとうございました。

江戸城天守を映像で再現するARアプリ作成を目指したクラウドファンディングは6月28日で募集期間を終了しました。募金総額は630万となったものの、目標額1千万円には未達成となり、プロジェクトは成立しなかった結果、全額が寄付者それぞれの元へ返金となりました。

一方で、かねてから文化庁に対し、文化遺産総合推進事業の補助金交付の申請していたところ、こちらからは事業採択の決定通知を受けました。

これによって、ARアプリ作成に必要な経費の最大1/2の補助金を受けることが可能となります。当会が残りの資金を集めればARアプリの作成が可能となり、募金目標額のハードルを下げることができます。

これまでクラウドファンディングにお寄せいただきましたご支援を、今一度新たな募金活動に振り替えていただきますようお願い申し上げます。なお、募金で「日本の絆」基金を利用すれば税制上の優遇措置を使えますので、個人場合は、寄付金額のおおよそ半分の還付を受けることが可能となります。

### 特別寄付キャンペーン・お申込み受付期間

令和元年8月19日～令和2年2月28日

### 寄付メニュー

一口1万円以上：

◎かわら版・ホームページ・アプリ内にお名前を記載

一口10万円以上

◎特別功労者としてかわら版・ホームページ・アプリ内にお名前を記載

一口30万円以上：

◎上記に加え、アプリ内に企業名、ロゴを掲載

一口100万円以上：

◎アプリ内1ページ全面に企業名、ロゴを掲載

### お問い合わせ

NPO法人江戸城天守を再建する会

電話：03-6423-1882（月～木、10：00～17：00）

## 【会員寄稿】

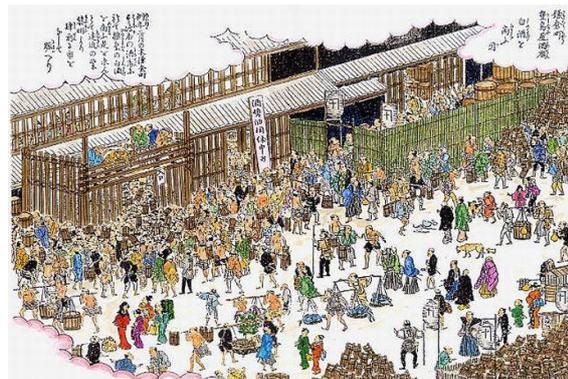
### 今も受け継がれる江戸城周辺の酒づくり

金子是久

江戸城の周辺地域(四ツ谷、新宿、亀戸、蒲田、王子、両国、板橋等)には、江戸～昭和初期にかけて、いくつかの酒蔵が記録されていましたが、大部分は消滅しました。今回は、現在も酒づくりを続け、酒文化を受け継いでいる2つの酒蔵について紹介します。

#### 1. 豊島屋酒造(旧豊島屋)

慶長元年(1596)、創業者豊島屋十右衛門が神田の鎌倉河岸(現:東京都千代田区内神田)で酒屋兼居酒屋を始めた東京で最古の酒舗です。創業当時の慶長年間(1596～1615)は、徳川家康が江戸に入居して間もない時期であり、1603年の江戸幕府の開催後の天下普請により江戸城を大拡張しました。その時に、鎌倉に集積された後に江戸に運搬された石材、木材が陸揚げされる場所が鎌倉河岸であり、当時は多くの人々で賑わっていました。最初、十右衛門は白酒(白く濁った甘味の強い酒で、戦国時代以前から飲まれていました)を醸造し、江戸中の評判を得ました。その後は、関西から運ばれた「下り酒」を販売し、酒のつまみとして味噌を豆腐に塗った後に焼いて供する「豆腐田楽」を提供し、絵のおどり人気を博したことで大変な賑わいでした。そして、豊島屋は、事業の拡大とともに幕府御用達となりました。明治時代中頃には、清酒の醸造業を自ら手掛けるようになり、昭和初期に蔵を東京西部の東村山市に移設し、現在に至っています。



豊島屋本店 HP <http://toshimaya.closed.jp/>

#### 2. 東京湾醸造(旧若松屋)

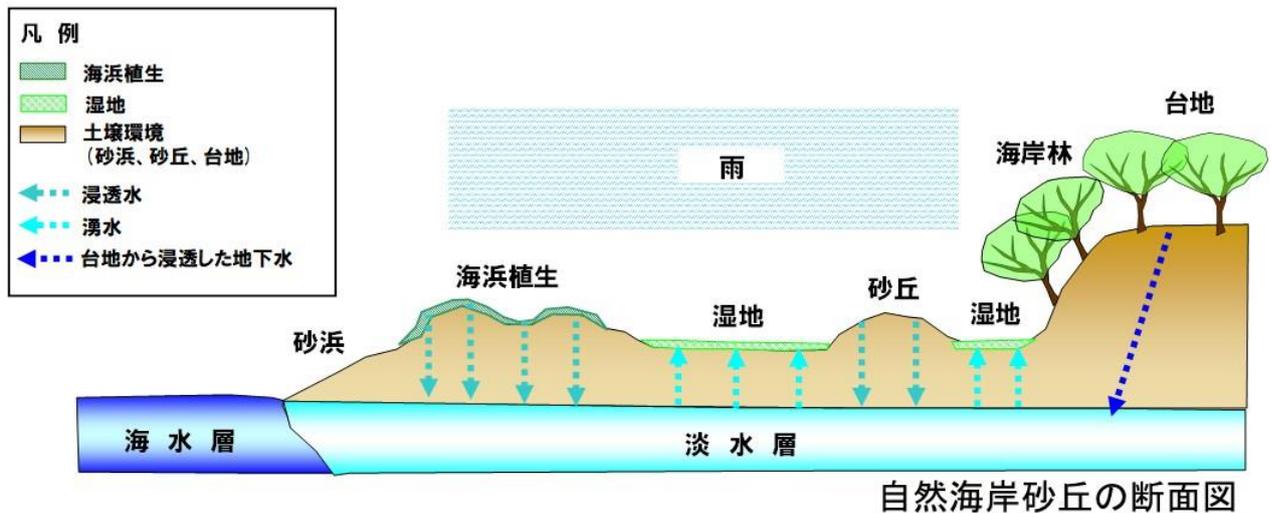
若松屋は1812年、長野から上京した初代が芝(現:東京都港区芝)に造り酒屋を創業したのが始まりです。当時の若松屋は、薩摩藩の御用商人で、敷地内には奥座敷があり、直接東京湾に通じる水路がありました。また、若松屋は、開国と江戸城無血開城という文明開化を目指した藩士たちの密談場であり、西郷隆盛、勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟らが頻繁に訪れていました。しかし、明治時代になり後継者問題、酒税を戦費とした日清・日露戦争で経営が傾き、若松屋は1812年から約100年間続いた酒造業を1911年に廃業する事となりました。その後、7代目当主の斎藤俊一氏が「東京土産・名物を作り、街の活性化させるため、家業であった酒造業を復活させたい」との思いから、酒造免許を取得し、2011年に100年ぶりに復活しました。2019年6月現在、東京23区内で唯一存在する酒蔵でもあります。



2011年に復活した東京湾醸造

### 3. 紹介した酒蔵の江戸時代の環境

今回、紹介した酒蔵の潜在土壌環境を地形分類図・表層地質図 5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査(千葉)を用いて調べた結果、豊島屋が位置していた立地は、地形分類が砂州、表層地質が沖積層(砂相)であり、旧若松屋の位置する立地も、地形分類が干拓地(1603 年前)、表層地質が沖積層(砂相)と、本来は、海に近い砂地(海岸砂丘の一部)であることがわかりました。下図のように海岸砂丘には、地下 10m 前後に淡水層が形成されています(金子ら 2012、Kaneko et al. 2013、Kaneko et al. 2017)。現在は、都市開発により高層ビル等が密集し、淡水層の水を利用することはできませんが、江戸時代～昭和初期頃までは、淡水層の水を産業用水や生活用水に活用していたと推察されます。



### 4. 引用文献

- 1) 地形分類図・表層地質図 5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査 (千葉)
- 2) 金子是久・押田佳子・松島肇 (2012) 海岸砂浜がもたらす生態系サービス—供給・調整・文化的サービスとしての重要性—. 景観生態学 17(1):19-24.
- 3) Kaneko k, Oshida k, Matsushima H (2013) Ecosystem services of coastal sand dunes saw from the aspect of Sake breweries in Chiba Prefecture, Japan: a comparison of coastal and inland areas. Open Journal of Ecology 3(1):48-52.
- 4) Kaneko k, Matsushima H (2017) Coastal sand dune ecosystem services in metropolitan suburbs: effects on the sake brewery environment induced by changing social conditions. Progress in Earth and Planetary Science 4:1-28.

# 特別寄稿 『歴史に残る名城の天守』

## <第9回:犬山城天守>



広島大学名誉教授  
三浦 正幸  
(当会特別顧問)

国宝犬山城天守（愛知県犬山市）は、木曾川を見下ろす絶壁上に建っている。三重四階、地下二階の望楼型天守であって、二つの小さな付櫓（つけやぐら）を設けた複合式天守である。この二つの付櫓は、明治24年（1891）の濃尾大地震で台座石垣とともに崩壊してしまっただが、昭和40年の天守解体修理の際に復原された。

この天守は、戦前の昭和10年に旧国宝に指定された。指定理由はその当時に残っていた20天守のうちで最古の天守と思われていたからだ。慶長4年（1599）、当時の犬山城主石川光吉（貞清）が徳川家康の命令を受けて、美濃の金山城（岐阜県可児市）の建物を犬山城に移築したとして、これを「金山越え」と伝える。この金山越えで金山城から犬山城へ移築された天守と言われ、犬山城天守の建築年代は、金山城が創築された天文6年（1537）と考えられていた。

ところが、解体修理の際の調査で、屋根の垂木を打った釘穴が一度だけしかなかったため、移築説は完全に否定されてしまった。そのため、当初から犬山城に建てられた天守だとして、奇しくも同じ天文6年、織田信康が犬山城を創築した時の天守だという説も出された。現存唯一の室町時代の天守とされたが、そもそも中世城郭の創築時と近世の天守の創建時が一致することはなく、信長が史上初の天主（天守）を岐阜城に創建したのは永禄10年（1567）のことであった。さらに、犬山城の本丸には、関ヶ原の戦いまでは神社が鎮座していたという後世の社伝から、近年は慶長6年（1601）以降に建てられたという説が出された。いずれにしても、学術的には、犬山城天守の建築年代は全く信用できない。

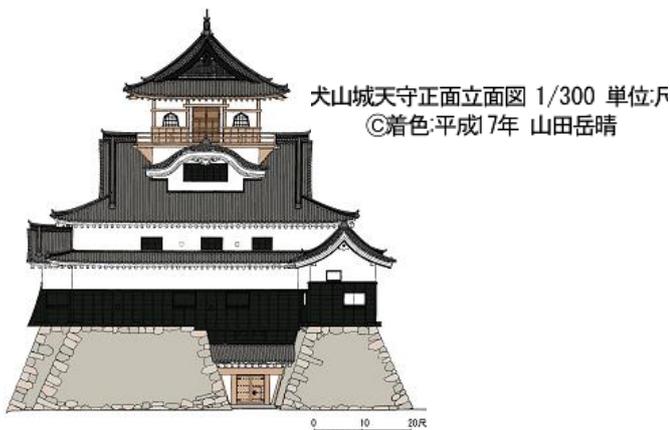
前置きが長くなってしまったが、現存建築を見る限り、この天守の建築年代は、一階だけが極めて古く、関ヶ原の戦い以前の16世紀末期と考えられる。その根拠は、一階内部の柱のうち数本の表面に残る手斧（ち

ような）の痕が、真横から電灯で照らさないと見えないくらい繊細なこと（熊本城宇土櫓や彦根城天秤櫓中央部の当初材に同じ）である。また12畳の主室の後方に閉鎖的な8畳の納戸（寝室の古名）があること、1間半という中途半端な柱間（通常の天守は1間間隔）があること、入側（武者走り）を仕切る杉戸の敷居・鴨居があることなどは、室町時代の書院造の殿舎の面影であり、すなわち書院造御殿を積上げた高層建築だった安土城天主の名残をもつ古式な天守なのである。

さて、詳しく犬山城天守を解説しよう。天守台石垣は明治後期および昭和戦後の積み直し部位が多いが、創築当初の石垣は築造技術が未発達だったため、ひどくゆがんで台形平面をなしていることだ。背面側より正面側が1間も長く、ゆがみ方は全国最大級であって、すなわち関ヶ原以前の特徴を備える。正面右方の付櫓台の出っ張りは昭和復原であるが、それに接して地階への入り口を開く。ところがその地階は2間四方ぐらいしかなく、一般的な天守の穴蔵とは違って著しく狭い。地階内部は階段室にしかっていない。しかも石垣が高いため、地階は2階になっている。本来なら、一階の身舎の下方に当たる4間四方を穴蔵とすべきであろう。解体修理時に地階内部から天守台一階へ上がる石段の跡らしきものが発見されており、この地階は屋外であった可能性も否定できない。そうであるなら、この天守台の上に建っていたことになる創建天守は、現状の半分ぐらいの小さな天守だったことが想定される。もしかしたら、その創建天守を除去して、金山城の天守を移築改造したものかもしれない。

一階は、その中心部に間口2間半、奥行2間の身舎を置き、その四方に2間幅の入側を廻らせる。向かって右方の入側を手前側にいくにつれて幅3間に広げること、天守台のゆがんだ台形平面に対処している。身舎は、手前側左方に12畳の上段之間（上段は江戸時代中期の改造で、当初は平床（ひらゆか））、その奥側に8畳大の納戸を配している。表側に座敷、その奥側に主人の寝室たる納戸を配するのは、極めて古式な書院造である。右方は、手前側に6畳大、奥側に10畳大という1間半柱間をもつ部屋を設ける。また、入側は6か所に杉戸（現状は開放）を建てて仕切っており、書院造殿舎に準じる古式を見せる。

二階は、一階右方の入側のゆがみを修正するほかは一階と同大平面である。小部屋を設ける古式な一階に対して、二階は身舎を36畳大の大きな一室とし、そ



犬山城天守正面立面図 1/300 単位:尺  
◎着色:平成17年 山田岳晴

の中ほどに牛梁(うしはり)を受ける独立柱を立てる。また、身舎と入側の梁を別材として、身舎に高く梁を架ける層塔型天守の新しい梁組が応用されているので、二階は関ヶ原以降の改築であると考えられる。したがって、二重目の垂木に釘穴が一度しかないとして移築説を否定する論拠は成立しない。

二階には二重目の大きな入母屋造の屋根を架ける。したがって望楼型天守である。三階はその屋根裏部屋であって、明り採りのために唐破風造の出窓を設け

る。最上階の四階は正面3間、側4間の一室で、四方に廻縁(まわりえん)を設ける。関ヶ原の戦い以前の天守最上階は3間四方なので、犬山城天守の最上階は、二階・三階も含めて、元和4年(1618)に城主(尾張徳川家の付家老)成瀬正成が改築したものと考えられる。

結論を述べれば、犬山城天守は一階のみが古くて16世紀末に遡り、熊本城宇土櫓・松本城乾小天守とともに現存最古の天守の一つと言える。

## 江戸城サロンからの報告

7月19日18時、江戸城サロンはお城模型作家の長谷川進氏の講演「平成お城よもや話」。市民の運動で再建されながら何故か市民の入れない新発田城等、平成期に木造で再建された5城の様々なエピソードが紹介されました。30名が受講。



長谷川進氏



新作の福知山城

8月31日と9月7日は2回シリーズで開催。日本橋の伊場仙セミナールームにて、松蔭大学客員教授の長谷川勤氏の講演「吉田松陰と明治維新」。60名が受講。

吉田松陰は「志士」の第一人者。志士とは「国を守るために己を顧みず命をかけた人」。その姿に今も感銘を受けるのはなぜなのか、解き明かしてくれた。

松下村塾は維新の大業を成し遂げた人材を多数輩出した。松陰の何が若者の心を捉えたのか？類まれなる学識。国の進路に対する明解な政策提言。そのために命をかける志しの高さ。それらを自ら実行したこと。2回に渡るお話の中でも理由が尽きそうにありません。



所蔵している松陰の掛軸（精密複製品）を披露する長谷川勤氏

## 江戸城サロン番外編で江戸博見学へ

10月9日11時から、江戸城サロン番外編として、江戸東京博物館（墨田区）常設展の見学ツアーを行いました。同博物館の見学では、事前に予約をすれば、見学者10名に対して1名の比率でボランティアガイドをつけてくれます。今回は会員を中心に20名のお申し込みがありました。

## 江戸城散策ツアーからの報告

9月5日、夏休みで中断していた江戸城散策ツアーを再開。大嘗宮造営のため東御苑本丸跡の一部が立入禁止のためルートを工夫。江戸城天守模型展示用建屋を覗き、休憩所の大嘗宮模型を前に大嘗祭の丁寧な解説。



天守模型の建屋

ツアーに参加すると御城印（登城記念）を入手できることが新たな魅力となった。

江戸城散策ツアーの開催記録と10月までの予定

開催日	曜日	集合時間	案内人	参加人数	御城印販売数
9.5	水	10:00	平川	14	18
9.14	土	13:00	斎藤	23	36
9.19	水	10:00	鈴木	16	20
9.28	土	13:00	黒木	25	25
10.3	水	10:00	平川	5	
10.12	土	13:00	松山		
10.17	水	10:00	斎藤		
10.26	土	13:00	黒木		

## JR 千葉駅夏祭りに参加してチラシ配り

7月21日（日）千葉駅中央改札口近くの会場で開催された千葉駅夏祭りに千葉第1支部が獅子舞で参加しました。江澤支部長はじめ支部員の皆さんの獅子舞に、島理事長、理事3名も参加。さらに西角千葉第3、後藤千葉第5、金坂千葉第10の各支部長がチラシ配りに参加。



## サレジオ学院から3名の学生が来局

9月24日、サレジオ学院中学校・高等学校（横浜市）の文芸部歴史班の3名が当会事務所を訪れて、初鹿専務理事に取材を行いました。江戸城天守再建の目的は何か。この建設資金はどのくらいで、資金調達は国の予算を使うのか。いつ頃実行できる計画なのか等、活発な質疑応答が行われました。



今後の交流を約束して別れました。

## 江戸城寄席を開催しました

9月14日18時40分から、東京・新橋内幸町ホールで第7回となる「江戸城寄席」を開催。会場がほぼ埋まりました。金原亭乃々香と金原亭馬太郎の落語、一龍斎貞花の講談「江戸の艶話八百蔵吉五郎」で仲入り、ロケット団の漫才、金原亭伯楽の落語「子はかすがい」で終演。



## Tokyo 江戸ウィーク 2019 に出展しました

9月20日～23日、東京・上野恩賜公園で開催されたTokyo江戸ウィークに、安土城をはじめとする近江八幡市（滋賀県）の観光PRと共同ブースを出展。最終日だけは台風の影響による横風で活動が制限されたものの、全体的に天気にはめぐまれた。おかげで、賛同署名は4日間累計579筆獲得。御城印販売は同80枚持ち込んだところ最終日の開店直後に売り切れとなった。

NPO法人安土城再建を夢見る会とはこれからもお互いに協力しあう関係を築いていく。



## 会員のみなさまへ【お知らせとお願い】

### ◆Eメールアドレスの登録のお願い

Eメールアドレスをお持ちの方は事務局宛にメールをお送り下さい。イベント等の情報をお送りします。

### ◆寄付の耳より情報：「日本の絆基金」寄付

「日本の絆基金」を利用して当NPO法人へ1万円以上ご寄付いただいた場合には税制上の優遇措置が受けられます。翌年の確定申告でおよそ半分が戻ります。詳細は当会サイト<http://npj-edojo.org/>の「寄付」の欄をご覧ください。

## 「お城 EXPO 2019」に出展します

お城 EXPO2019 が、12月21日(土)・22日(日)、パシフィコ横浜 会議センターにて開催されます。昨年まで3日間で2万人を超すにぎわいでしたが、会期が1日減りました。本会は例年通り1コマ出展しますので、会員の皆様にはブースでのプロモーションに手を貸してください。開催時間は1日目：9:00～19:30、2日目：9:00～17:30です。希望者は当会事務局までご連絡ください。なお、賛同署名・ビラ配りに加え、江戸城御城印の販売が好評を博しそうです。

## 新企画・名城ツアー第1回を実施します

### 名城巡りツアー第1回

「忍城(おしじょう)と埼玉古墳群  
(埼玉県行田市)



当会では新企画「名城巡りツアー」を開始します。お問合わせ・お申込みは当会事務局までお願いします。

日時：2019年11月16日(土) 往復バスにて移動

8:30 出発(東京駅北口日本生命ビル前集合)

9:30 大宮ソニックそば

※帰路も大宮駅近くを經由して東京駅近くで解散  
費用：8700円(会員)／9700円(一般) ※入場料・昼食込  
申込先：当会事務局(終面参照)

締切：10月末日

## 太田道灌公第18代子孫 太田資暁氏講演会

### 文武両道・太田道灌公の素顔を子孫が語る

埼玉でも多くのゆかりの地がある太田道灌公。武蔵国での活躍を子孫である太田資暁氏が語ります。

期日：2019年11月17日(日)

会場：浦和コミュニティーセンター10階 第14集会室

(湘南新宿ライン、東京上野ライン、京浜東北線、

宇都宮線、高崎線 浦和駅下車 東口駅前パルコ内

募集人員：60名

参加費：会員500円(非会員1000円) 当日会場にて

企画：江戸城天守を再建する会 埼玉支部会

お問合せ先：080-6584-4975(平川)

# 江戸城再建

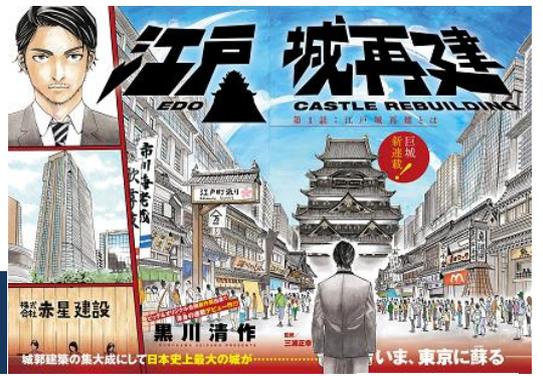
EDO CASTLE REBUILDING

単行本第①集 発売記念  
トークショー開催

12月19日(木)  
開場 18:30/開始 19:00

ビッグコミック  
BIG COMICS  
好評連載中  
!!!!!!

黒川清作(漫画家) × 黒田涼(作家)



©黒川清作/小学館

**申込方法**

●右記の申込先に、①イベント名  
([江戸城再建]単行本発売記念  
トークショー)②お名前③ご住所④  
お電話番号をメール・電話・FAX  
のいずれかにご記入、お伝えいた  
だき、ご応募ください。

**申込先**

●NPO法人 江戸城天守を再建する  
会 事務局(月～木/10時00分～17  
時00分)  
●メール/info@npo-edojo.org  
●FAX/03-6423-1897  
●電話/03-6423-1882

**参加費**

●単行本込み/1,000円  
●単行本なし/500円  
※当日のお支払いとなります。

単行本第1集は  
12月12日頃発売

●主催/小学館ビッグコミック編集部 ●協賛/NPO法人 江戸城天守を再建する会

●場所:小学館ビル2階  
東京都千代田区一ツ橋2-3-1

## J-CULTURE FEST

2020年1月2日～1月5日  
東京国際フォーラムにて「新春お城びより」を開催

※予告なしに企画を変更する場合があります

2020年1月2日(木)～1月5日(日) 日本全国のお城に関する展示と講演会をJ-CULTURE FEST(会場:東京国際フォーラム)に併催します。今回は「正月テーマパーク」(1月2日～3日、ホールE)にも「日本の歴史」ブースを戦国魂と共同出展します。講演会・散策ツアー参加費(税込)は一律、前売1000円(当日1500円)を予定しております。なお、江戸城御城印を販売します。お問い合わせは下記当会までお願いします。

日時	演題・企画内容	講師・出演者	会場
<b>日本の歴史ブース(正月テーマパーク内)</b>			
1月2日(木) 11時～18時	戦国時代・江戸時代のアートグッズやワーク ショップ、トークショーや展?等。アニメ『ねこ ねこ?本史』の特設ブースや「御歌頭」の?迫? 墨絵ライブも登場	御歌頭(墨絵師)、長谷川ヨシテ ル(歴史作家)、晴野末子(歴史 タレント)、江澤廣(氣天流)	東京国際フォーラム ホールE展示会場
1月3日(木) 11時～18時			
<b>新春お城びより・散策ツアー</b>			
1月3日(金) 13時～16時	散策「1964年五輪跡地と新国立競技場を訪ねる」	黒田涼(歴史紀行作家)	都内散策
<b>新春お城びより・講演会</b>			
1月3日(金) 10時～12時	講演「五輪と東京の歴史」	黒田涼(歴史紀行作家)	東京国際フォーラム ガラス棟会議室
1月4日(土) 14時～16時	講演&演奏「♪万葉びとの旋律 レクチャー&コ ンサート」	佐藤溯芳(講演)、久保順(箏笛演 奏)、伊藤江里菜(箏演奏)	
1月4日(土) 17時～19時	対談「ビッグコミック『江戸城再建』単行本第1集 発行記念トークショー」	黒川清作(漫画家)、黒田涼(歴 史紀行作家)	
1月5日(日) 14時～16時	講演「東京の新歴史名所～太田道灌ゆかりの地や 浮世絵に書かれた名所案内」	太田資暁(太田道灌18代子 孫)、堀口茉純(歴史作家)	

浅草  
茶寮  
一  
松



**NPO法人 江戸城天守を再建する会**

◇電話 03-6423-1882 ◇FAX: 03-6423-1897  
◇Eメール info@npo-edojo.org  
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-7  
神田中央ビル 505 ◇ホームページ http://npo-edojo.org  
◇Facebook http://www.facebook.com/npoedojo



**ONL** 株式会社組織ネットワーク研究所

**株式会社虎ノ門実業会館**

後世に伝えたい味がここにある

とらのもんいちば  
**虎ノ門市場**

お取り寄せグルメ虎ノ門市場 <http://www.toranomon-ichiba.com/>